

令和元年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	川越きものの日事業
団体名	川越きものの日実行委員会
市担当課名	観光課
事業の目的	川越きものの日実行委員会では、「きものが似合うまち川越」を合言葉に、毎月8の付く日を「川越きものの日」として、きもの姿で川越を楽しんでいただけるお客様を増やすことを目的として様々な事業やサービスを提供します。
事業の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月18日には、蓮馨寺にて無料着付けや物産展などを開催し、きもの姿の誘客を図る。 ・「きものファッションショー」日時：5月18日 場所：旧山崎家別邸 参加者：40名 ・「ゆかたファッションショー」日時：8月18日 場所：蓮馨寺 参加者：48名 ・「きもので初詣」日時：1月18日 場所：喜多院、氷川神社等 参加者：46名
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割：事業の実施。協賛店の拡大。事業の周知。
	川越市の役割：広報。市の施設の利用。
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・8月18日開催の「ゆかたファッションショー」には、毎年50名の方が参加し、思い出のあるゆかたを披露する場として定着してきました。 ・11月18日開催の「きもの供養」では、引き取った40着のきものを供養しました。 ・1月18日開催の「きもので初詣」には、東京都内、さいたま市など川越市外からも参加される方が増え、今年も46名の方が、きもので喜多院、氷川神社をめぐり、食事と獅子舞や箏の演奏を楽しんでいただきました。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	毎月18日に開催している、蓮馨寺講堂での染物体験や物販事業の集客が少ないため、観光案内所にきものの日のホームページにアクセスするQRコードを設置し、気軽に検索しながら、協賛店を巡ることが出来るようにして拡大を目指します。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	「きもの供養」で引き取ったきものの再利用や物販販売、体験工房の拡充により、収入の安定を図り、継続していく事業にしていきたい。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和元年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	小江戸川越粋な伝統和芸を守り育てる会事業
団体名	小江戸川越粋な伝統和芸を守り育てる会
市担当課名	産業観光部 観光課
事業の目的	小江戸川越粋な伝統和芸を守り育てる会は、小江戸川越の更なる活力の向上に資するため、小江戸川越で培われた粋な伝統和芸を守り育てることを目的として、様々な事業やサービスを提供します。
事業の実施内容	小江戸蔵里・八州亭において、4月から3月まで毎月第二、第四土曜日の夕方に「伝統和芸鑑賞会」を開催。 ・2017年度 伝統和芸鑑賞会 年間22回開催。 ・2018年度 伝統和芸鑑賞会 年間22回開催 ・2019年度 伝統和芸鑑賞会 年間20回開催（2月末時点、全22回開催予定） 演目内容は、幫間芸、篠笛、箏、日本舞踊、尺八、三味線、津軽三味線、琉球舞踊とうた三線、かつぼれ、玉すだれ、地唄舞など
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 ・小江戸蔵里・八州亭において、伝統和芸鑑賞会を実施 ・各回毎に伝統和芸鑑賞会のチラシを作成し、小江戸蔵里、観光案内所で配布
	川越市の役割 ・広報誌の掲載や市の施設の利用
事業の成果	今年で6年目になる「伝統和芸鑑賞会」ですが、毎年順調に入場者数を増やすことが出来たのは、川越市との協働で広報活動を行ってきた結果だと思えます。 ・2017年度 伝統和芸鑑賞会 入場者数：633名 ・2018年度 伝統和芸鑑賞会 入場者数：674名 ・2019年度 伝統和芸鑑賞会 入場者数：634名（2月末時点、最終700名を超える見通し） 「伝統和芸鑑賞会」の平均入場者数が1回の開催分で33名（昨年31名）と和芸の文化が定着してきました。共通前売券の売り上げ枚数も順調に増え、リピーターが多く訪れるようになってきました。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	毎月2回開催しているイベントとして、まだ観光客の方には認知度が低いと思いますので、チラシの設置場所を観光案内所、蔵里に加え、ホテルなどにも展開していきたい。また、今年度実施している巡回バスでの車内での広告も継続、新たにSNSも活用していき、イベントの周知を広めていきたい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	現在「東京国際大学」の学生がボランティアとして運営に参加いただいておりますが、今後は、活動の範囲を留学生にも広げて、日本の和芸文化を伝えていきたい。また、留学生による外国語の発信を増やして、事業を発展させていきたい。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和元年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	サツマイモまんが資料館開設事業
団体名	川越サツマイモ商品振興会
市担当課名	産業観光部農政課
事業の目的	継続事業3年目となる本年は、更に川越地方のサツマイモ産業観光と商品文化の振興、伝統川越いもの情報発信を図るため、12月1日（紅赤いもの日）に蔵造りの通りに「サツマイモまんが資料館」をオープンする。
事業の実施内容	1：12月1日（第2回紅赤いもの日）に「サツマイモまんが資料館」（紋蔵庵蔵の街店2階：約15坪）をオープン。川越市立博物館へ寄贈した「元サツマイモ資料館」のイラスト等の展示物も再活用した。2：12月1日（日）に、関係者や協賛者など約40名の参加のもと、オープニング式典を開催し、展示資料等を見学していただいた。3：同時に「川越いも学校」を開設して、川越いも文化やサツマイモに関する知識伝達の場もつくった。※開設と同時にホームページを作成アップし、更に案内リーフレット（5000部）も作成して、市民に利用案内を知らせるよ
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 開設のための協賛金集め / 展示パネルの製作と飾り付けなど / 運営方法のルールづくり / 12月1日のオープニング式典の実施 / ホームページや案内リーフレットの作成など 川越市の役割 開設のための支援（市立博物館よりの展示物借用の支援・オープニング式典よりの関係者参加など） / PR等の支援など
事業の成果	マスコミの新聞記事（埼玉新聞社）や観光協会の冊子、市広報等に掲載していただき、オープンしたことを広く市民等に知っていただいた。また、川越市民ばかりでなく、サツマイモに関心のある方々が遠路、資料館の見学にみえて、川越いも文化の歴史などを知っていただいている。見学に見えた方々の感想を聞くと、いろいろとサツマイモや川越いものことについて聞ける場ができて、大変よかったとの言葉をいただいている。2月2回の開館だが、今後もサツマイモに関心のある方に、館長（山田英次・、ペーリ・ドウエル）の2人で川越いも文化事情を伝えていきたい。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	オープンより難しいのは、維持運営であるため、今後も川越市の農政課を窓口にして、運営資金・人・ネットワーク等の支援を受けていけるように働きかけていきたい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	案内リーフレットの配布や、未完成の展示物の作成、川越いも学校の講演資料づくり、ネット環境の整備などを行っていきたい。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和元年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	テレジン収容所の幼い画家たち展
団体名	「テレジン収容所の幼い画家たち展」実行委員会
市担当課名	総務部 人権推進課
事業の目的	第二次世界大戦当時、テレジン収容所には、15,000人の幼い子どもたちがいました。飢えと寒さに苦しみ、繰り返される暴力におびえ、いつアウシュヴィッツに送られるのだろうかという不安から次第に笑顔を失い、心を閉ざすようになりました。そんな子どもたちの笑顔をもう一度取り戻そうと命がけで立ち上がったフリードル先生の絵の教室。そこで描かれた絵を展示します。信頼できる大人の優しい励ましで希望の光を見つけた子どもたちの絵は素晴らしく子どもたちが残したメッセージは教育の重さと生きている喜びを感じさせます。「明日幸せな日がやって来る」と願った子どもたちは100人しか生きて外に出ることができませんでした。生きていることがどんなに幸せなことか、命がなにより大切なことを語りかけています。親子と先生と友達どうして話し合う機会にして欲しいと願い開催しました。
事業の実施内容	7/23～28 川越市立美術館・市民ギャラリーに於いてテレジン収容所の中で描かれた子どもたちの絵のパネルの展示。来館者数1500人。7/27の午後アートホールにて『テレジン もう蝶々はいない』のコンサートを実施。100人参加。市民ギャラリー会場では、情報コーナーを設け、野村路子さんの出演したEテレ番組「テレジンの絵は語り続ける」やテレジン収容所関連のDVDを期間中毎日放映。関連書籍の自由閲覧、感想ノート、また子どもたちが自由に絵を描いて楽しめるスケッチブックや画材を用意した。
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割 パネルの展示と朗読や歌でテレジン収容所の子どもたちの事を知って欲しいと創られたコンサートとを実施。沢山の小中高の生徒たちに観てもらえるように学校訪問を重視。小中8校は全生徒にチラシ配布。以外の49校には50枚ずつ配布。県立高校、私立高校を訪問チラシの配布を依頼。6月の協働事業決定から実施までに周知してもらう期間が短かいので時間の許す限り宣伝活動に努める。記者会見。無料の新聞掲載広告。行きつけのお店に置きチラシ依頼。川越市掲示板200枚掲示。チラシポストイン1000枚、案内はがき送付等。</p> <p>川越市の役割 人権推進課から広報へ掲載、学校訪問のための事前の依頼全般。美術館周辺の自治会へのチラシ回覧の依頼。アートホール貸出。教育委員会への協力依頼。</p>
事業の成果	出来るだけ沢山の生徒に観てもらえるように夏休みの1週目に開催したが、先生と一緒にということは難しかったけれど、親子で、孫と一緒に、夏休みの宿題にと熱心にメモを取りながら見ていた小学生の姿もありました。多くの感想が寄せられ(別添)事業の目的は、想像以上に来館者の心に届き、十分に果たせたのではと思います。市内は勿論の事、九州、和歌山、神戸、新潟と県外の人も多数見え、活動はまた大きく広がったと思います。それだけ多くの方に平和の大切な事、差別の怖さ、そして決して誰も互いの人権を壊してはいけないことを感じとっていただけたのではと思います。

協働事業として継続する場合の課題とその対応策	今回は、協働事業をどちらの課とするのかの決定と実施日程との間の期間が短かったので十分話し合いができませんでした。次回はもっと連絡を密にしてご指導を頂きたいと思ひます。人権推進課の方にも、一度でもいいので実行委員会にもご出席いただけたらと思ひます。また、人権推進課の年間計画のなかで一緒にできることは無いのかなど今後の課題にしたいと思ひます。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	自己資金の無い市民の活動の継続は困難ですが継続したい。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和元年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	空き家対策セミナーおよび個別相談の実施による不良空き家の発生予防活動
団体名	特定非営利活動法人空き家対策協会
市担当課名	防犯・交通安全課
事業の目的	○空き家についての情報を市民に提供し、多くの市民に問題意識を持っていただく ○空き家予備軍と言われる方々に相続についての情報を提供し、不良空き家にならないように対策を促す ○すでに空き家でお困りの方に対し、個別相談を実施し、具体的な提案をする
事業の実施内容	① 市民向けの情報発信の実施 令和2年1月19日(日) 14:00~16:00 ウエスタ川越2F 会議室1・2 「相続・空き家対策セミナー」の実施 参加者96名 ② 個別相談会の開催 令和2年1月25日(土) 9:00~17:00 ウエスタ川越2F 活動室5 個別相談会 相談組数 15組
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 ○会場の確保 ○チラシの作成 ○セミナー及び個別相談の実施 川越市の役割 ○チラシの自治会回覧板での回覧 ○市報への掲載 ○その他イベント告知(ホームページ)
事業の成果	○川越市では同様のセミナーを4年間で4回実施したが、過去最高の来場者数であった。(昨年46名→今年96名)これは、協働事業として広くイベント告知をすることができたことが直接的な要因である。これにより、例年以上に多くに市民に、空き家対策の重要性を訴えることができた。 ○個別相談についても、予約でいっぱいとなっており、非常に盛況であったと言える。(昨年の相談予約6件→今年の相談予約15件)多くの皆様に有益なアドバイスができた。 ○個別相談については、具体的な提案をすることは極力避けた。そのため、本事業の目的の一つは達成できなかった。実は空き家対策の推進という意味では、ここが非常に重要であり、行政が直接取り組むことの出来ない部分であるため、行政との役割分担をすべき重要なポイントであると認識しているが、制度上の問題であることからやむを得ないと理解している。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	○空き家対策については具体的な提案をし、困っている、迷っている市民の後押しをする必要があるが、協働事業として展開することで具体的な提案ができなくなる。個別相談については協働事業として実施すべきではないと考える。 ○協働事業として継続するためには、個別相談ではなく、セミナーを複数回やるとか、今までにないようなイベントを実施するのが良いと思われる。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	○セミナーと個別相談事業では、大きな費用は掛からないので、規模を小さくして実施していくことは可能と考える。他市町村での実施の話もあるので、協会予算とマンパワーの都合を考慮して、来年度も実施する方向で検討したい。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和元年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	Painters Street
団体名	ViewCasArts
市担当課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・アート(芸術・美術)をより身近に感じることのできる環境づくり ・若手アーティストの活動支援 ・アーティストコミュニティーの創設
事業の実施内容	<p>Painter Street in おとまち小江戸秋祭り 日程：10月27日 日曜日 場所：ユニクス川越（ウェスタ川越）広場 参加アーティスト：5名（絵画：3名 フェイスペイント：1名 写真：1名） 内容：ペイント空間をリアルタイムで見る・感じることの出来る様なアーティストが自分の作品を描く。また、お客さんがアートに触れる機会として参加可能なペイント企画を実施。</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>来場者が芸術文化を身近に感じることのできるイベントの企画・運営 アーティストが多く場で活躍できる様に自由に制作の出来るイベントの企画・運営</p> <p>市民などより多くの人にイベントを人して頂く為、フライヤー(お知らせ)の配布等</p>
事業の成果	<p>日常で利用されている施設で非日常的に芸術・文化に触れることができる様にお客さんが参加できるペイントを企画。アーティスト：Kanji Kurihara が主導で当日来場された40名程度の方が参加し1枚の作品を作り上げました。</p> <p>また、10月27日開催ということでハロウィンに絡んでフェイスペイントも実施いたしました。子供を中心に多くの方に興味をもってもらえる企画となりました。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>新企画をメインとして動いたことで今まで開催していた個人制作での参加人数が少なくなってしまったので、同時並行で過去と同規模の多人数ライブペイントをおこないたい。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>周囲の協力を得ながら、多人数のライブペイントを続けていきます。</p>

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和元年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	原発避難者と共に地域共生推進事業
団体名	原発避難者と歩む@川越
市担当課名	市民課
事業の目的	原発事故後、川越市に避難してきた避難者の被害の実態・福島の現状を知り、教訓として生かすことで、今後の災害に対応できる連携体制作り、心構えを育み、減災・防災に役立てたいと考えております。コンセプトは「同情ではなく共感へ・地域共生」です。
事業の実施内容	事業開始と共に毎月2.3回、準備の会議を行いました。 2019年12月21日 ウェスタ川越に於いて、YUKARIコンサートを開催 第1部は、歌と語り(いわき市から東京へ母子避難している歌手) 第2部は、いわき市から川越市に避難している当会メンバーによる「いわき弁講座」を行い、その後YUKARIさんと川越市在住フリーライター吉田千亜さんによるトークセッションを行いました。 第3部は、登壇者による質疑応答を設け、闊達な意見交換を行いました。
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 ・避難当事者や福島在住者の話を直接聞くことで、共感し地域共生の為の橋渡しをする。 ・チケット販売・ポスター貼付などの活動により、連帯意識・避難者支援の意識向上を目指し、継続的な連携に繋げる。 ・防災・減災意識の向上
	川越市の役割 ・広報活動 ・川越市・埼玉県への関係各所の連絡調整・チラシ・ポスターの配布
事業の成果	所管課である市民課の協力により、広報誌のトップ記事として掲載していただいたことで、開催後のアンケートに「広報誌を見て参加した」という方が、複数名いました。「川越市との協働事業」として行うことで、例えば当日の久津間課長の挨拶の中で「避難者を孤立させない」や「同情から共感へ」と川越市がバックアップして避難者を守ろうとくださることが、参加者にご理解いただけたのが良かったと思います。当日の広報誌を見ただけでも足を運んでくださるような方が増えました。 「まだ川越に避難者がいるとは知らなかった」や「原発事故はもう終わったものと思っていた」や「自分に何かできることはないか？」など、終了後のアンケートに書かれていて、開催の意義があったと手ごたえを感じました。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	今回、初めて協働事業への参加だったので仕組や制度を把握しきれず、ウェスタ川越の会場費104,400円が経費として認められず、結果的に赤字になってしまいました。ウェスタ川越の予約は、一年前から予約可能ですが支払いが十日以内のため、協働事業申請前に予約してしまい事業外支出となり、マイナス収支となってしまいました。 次年度は、予めしっかり打ち合わせをして、会場の予約をしなければならないと思いました。 避難者の現状を知っていただく為には、広報活動にもっと力をいれて、協働事業ならではの利点を最大限生かしていきたいです。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	補助金がなくとも継続してイベントを開催し、風化される原発事故・被害者に寄り添い、川越市民と共に「同情から共感へ」をスローガンに共に活動継続していきたいと考えております。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和元年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	地域猫活動推進事業
団体名	小江戸地域猫の会
市担当課名	食品環境衛生課
事業の目的	市の補助金制度を活用して、飼い主のいない猫の繁殖制限を行い、近隣トラブルの解決や殺処分の減少を目指します。
事業の実施内容	①保護犬・保護猫譲渡会開催・・・南古谷セキチュー川越店・毎月1回 ②トレーラーハウスによる出張手術実施（8月12日・2月25日・・・101頭手術実施）③シンポジウム開催で啓蒙啓発活動実施 ④ご相談に応じて随時アドバイスや捕獲等の協力（年間270頭）
事業実施時における市との役割分担	市への市民からの相談に対応して、現場の調査や地域住民へのアドバイス、飼い主のいない猫の捕獲・病院搬送のお手伝いをしています。その際やむなく保護した猫の譲渡活動も行います。
	制度設計や啓蒙啓発のための広報活動。
事業の成果	昨今の猫ブームや保護猫についてマスコミで取り上げられることが増えたことから、興味関心をもって頂くようになりました。しかし、可哀そうでは解決しない問題が多く存在していることを知っていただくには、やはり地道な地元での活動が不可欠だと思います。そのために今年行った活動は、ある程度の成果があったと実感しています。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	地域住民の関心がこの問題の解決のポイントだと思います。自治会等に働きかけたり、他のボランティアグループと連携を取ればさらに有効な手段が取れるのではと思います。そのためにはどうしたらよいかを模索したいと思います。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	アドバイスや補助を必要としている方のため変わらず活動を続けたいと思います。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和元年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	なくそう！「子どもの貧困」川越シンポジウム
団体名	なくそう！「子どもの貧困」川越シンポジウム実行委員会
市担当課名	子ども家庭課
事業の目的	「子どもの貧困」問題に関して広く市民に情報発信して関心を高め、考え合う「場」を提供する。集まった市民で「子ども食堂」「学習支援」などの具体的な支援活動につなげていく。
事業の実施内容	2019年9月15日 やまぶき会館ホールにてシンポジウム開催 参加者約240名 この日に向けて毎月実行委員会開催 市民に向けて宣伝活動を行ってシンポジウム開催を知らせるとともに、実行委員会とともに準備活動を行うことを勧誘。実行委員会では学習活動や交流も行って次第に具体的支援（子ども食堂など）立ち上げのムードも高まった。シンポジウム終了後は具体的な支援の方向にシフト 社会福祉法人や寺院に申し入れや話し合いなどつづけながら、結果的に子ども食堂やフードパントリーの立ち上げにこぎつけた。
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 シンポジウムの具体的な準備、市民への宣伝や呼びかけ、子ども食堂などの立ち上げ勧奨
	川越市の役割 シンポジウムにおける登壇、調査結果の報告やパネルディスカッションでの意見表明、宣伝のためのバックアップや関係各課への橋渡しなど
事業の成果	多くの市民と「子どもの貧困」問題について考え合う場を持つことができた。また川越市が行った「子どもの生活に関する実態調査」をシンポジウムで知った市民も多く、高い関心と呼ぶとともに評価も得た。潜在的にこの問題に関心を持っていた市民も含め、多くの市民が実行委員会にも集まり、3つの子ども食堂と1つのフードパントリーを設立・準備することができた。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	「協働事業」という枠組みで市と市民が何を行いうるかを模索する。できれば本当に「子どもの貧困」を解消するような取り組みをしたいので、子どもへの支援の在り方を協議しながら進める。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	補助金があろうとなかろうとやらなければならない事業。ただ、かけられる予算が制約されれば、その分何らかの出費を抑えざるを得ないこともありうる。自力調達もしていくので実際にどうなるかは補助金終了とそのままリンクはしない。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和元年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	川越の歴史に触れる朗読会事業
団体名	學のまちkawagoe実行委員会
市担当課名	文化芸術振興課
事業の目的	□主に在住社を対象に、川越が舞台となった本をとおして地域の歴史に触れ、より自分の地域の歴史を知ること、未来の川越の文化形成、発展に寄与する。
事業の実施内容	年4回（6月、9月、11月、1月）にわたり、朗読と解説をとおして地域文学に親しむシリーズを開催。各回40名～100名の来場。一般チケットを1000円で販売。また市内協賛企業のご協力いただいたこともあり、充実した企画でアンケートも好評だった。
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 企画に関わる関係者との調整や物品などの調達。 来場者に本を通して地域の歴史について興味を持ってもらう 川越市の役割 市内在住社を対象とするので、教育委員会、図書館他、関係行政機関との協議調整。広く市内一般を対象とした広報活動
事業の成果	各回40名～100名の来場。一般チケットを1000円で販売。また市内協賛企業のご協力いただいたこともあり、充実した企画でアンケートも好評だった。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	基本的にSNSでの告知による集客を行なったが、学生の参加が少なく、チラシ配布を含む告知方法にもっとバリエーションを持たせるべきだった。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

令和元年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	ゴゴさろん
団体名	新宿町五丁目自治会
市担当課名	福祉部福祉推進課
事業の目的	地域に根差した活動を54年取り組む中、迫りくる「2025年問題（超高齢化社会）」に対処するために、コミュニティの活性化と持続、そして日常の交流を目的とします。
事業の実施内容	新宿町五丁目自治会で毎月、地域集いの場「ゴゴさろん」を自治会集会所で開催する事業です。対象は、会場に来られた方どなたでも。月替わりで、趣味（工作・手芸・音楽・講演など）の体験をし、会場でお茶と「どなたときも」（第3いもの子作業所、就労継続支援A型事業所）のパンで、楽しい時を皆で共有します。参加者の満足感、実施者の達成感が、地域の活気へと広がり、人の繋がりがさらに深まる取り組みです。平成31年4月23日～令和2年2月25日の毎月末火曜午後の計12回、延1,293人参加動員。
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 住民の集まりである自治会の強みを活かし、計画～募集～実施～検証のそれぞれを総合的に行います。
	川越市の役割 川越市福祉推進課へは、市福祉政策の立案者として、「ゴゴさろん」のような集いや居場所づくり事業への助言、情報提供、さらに事例研究や好事例の発信を期待します。
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月集会所で「ゴゴさろん」を催し、4月～2月で1293名動員、実施側で延49団体参加。特に9月は1周年としてウェスタでバイオリン演奏会(143名)、屋外住宅公園で「域活き秋まつり」（約700名）を開催しました。 ・ゴゴさろんに続き、新宿町全域で日常での集いの場等が増えました。（巡回型集いの場「つどい新宿町」、介護予防体操、室内競技、趣味サークルなど） ・居住・性別・年齢・障害・官民の別なく、毎回異なる内容を皆で創り、互いに刺激しあい、地域活性化を図ることが出来ました。 ・毎回のアンケートからも、高評価、継続を希望する意見が多数ありました。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴゴさろんは今後も継続し、参加型の地域集いの場として息の長い活動を目指します。 ・2025年問題に備え、令和2年からは次の地域の担い手『ミドルシニア』の居場所や交流の創出も図り、地域での見守り・助け合いへ繋がります。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	「ゴゴさろん」は続けること、広げることで効果がある事業と考えています。ただ、町内会員で成り立つ単位自治会の予算を使い運営するには制約があります。協働委託事業となれば、より広範囲で同様の事業が展開しやすくなります。「ゴゴさろん」をぜひ支えてください。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。